

第7回経済地理学会著作賞選考結果

受賞者名：中澤高志

受賞著作：『労働の経済地理学』（日本経済評論社，2014年，317ページ）

受賞理由：

本書は、1990年代以降の欧米の経済地理学界で進展してきた労働の地理学を基盤としながら、その方法論的、理論的考察を踏まえつつ、日本の労働市場に関する詳細な実証研究を行った。この著作の特徴は、方法論的および理論的な考察に基づいて実証研究を行っていることであり、経済地理学会が追及してきた研究方法論上のひとつの課題に答えるものになっている。この点について著者は、冒頭の2つの章で労働市場の特徴と関連したフレキシビリティ概念やスキル・エコシステムの考え方を詳細に検討した。これらは、第3章以降の実証分析の方法論的検討と位置付けられる。

第3章から第8章までの実証分析において著者は、大分県を主な事例としながら、日本の周辺地域における労働力の多様な需給関係を検討した。それらは、専門高等学校卒業生の地域労働市場における役割、労働市場政策としての自治体のジョブカフェ事業の特徴、子育て期の女性に対する在宅就業支援、派遣・請負業者と自治体が介在する非正規雇用の雇用調整、そして日本人女性の海外就労に関する研究などである。こうした主題は、近年社会的に問題となっている課題でもある。これらの実証分析に基づいて最終章では、スキル・エコシステムの概念を用いてキャリア開発の可能性を考察した。これは労働市場政策とも関連しており、欧米諸国の議論を参考に政策的に検討している。

本書は、1990年代以降の日本の雇用環境の変化と労働政策の変化を受けた、実証的研究である。そして労働の経済地理学という日本の経済地理学の中では新たな試みであり、労働力の空間的分布の地理学的研究を超えて、労働力を空間性にかかわる行為主体として明確に位置づけている。さらに、労働市場の社会的調整を重視する視角が提示されており、理論的考察と実証的研究のバランス、政策論への応用可能性の検討などで貢献している。こうした諸点において本書は、経済地理学会の発展に資することが大きい。

第7回経済地理学会賞選考委員会：生田真人（委員長）、小俣利男、加藤幸治、合田昭二、友澤和夫、千葉昭彦